

戦時下の大津

大津には、明治8年に歩兵第九連隊が駐屯していたが、第1次大戦後の軍縮協議により、大正14年第3大隊を残して京都深草へと移転した。その後、日中戦争・太平洋戦争の勃発により、昭和16年に大津連隊区司令部が復活、その他にも大津海軍航空隊・滋賀海軍航空隊、大津陸軍少年飛行兵学校などの軍事施設が多く設けられていた。



歩兵第九連隊の兵舎と練兵場(本館蔵)



青い目の人形(平野小学校蔵)

占領軍の大津進駐

昭和20年の敗戦により、大津の軍事施設の跡には、アメリカ占領軍が進駐。昭和27年4月のサンフランシスコ講和条約後も、大津に進駐していたが、撤退後は、昭和32年から33年にかけて順次国に返還されていった。返還後の跡地は、自衛隊駐屯地のほか、皇子が丘運動公園などに利用されている。



キャンプA地区 (現在の博物館一帯)



大津水耕農園 (現在のJR唐崎駅一帯)